

世界の薬学教育

最終回

グローバルな視点からの 大学教育の評価

城西国際大学薬学部
臨床統計学教授

山村 重雄

前回は、教育評価の質の評価について紹介しました。薬学教育の質評価は、医療の評価でも用いられる「Structure-Process-Outcomeモデル」に、背景(Context)とOutcomeが社会に与える影響(Impact)の五つの段階で評価するとよいと考えられています。これらの5本の柱を支える土台となるのが、サイエンス、実務、倫理からなるCompetencyです。

初めて「世界の薬学教育」を読まれる方は、前号までのCompetencyや教育の質評価の方法について目を通してから再度読んでいただければ少し理解が進むかと思います。前回は、薬学教育の質評価の考え方の一般論をお話ししましたが、今回は、具体的にどのような点を評価するのかをご紹介しますと思います。(日本では、各薬科大学・薬学部の教育内容の評価は一般社団法人「薬学教育評価機構」が行っています)

学生時代は、カリキュラムに沿って学習することに精いっぱい、教育の質の評価なんて考えたことはあまりないと思います。今では、ほとんどの大学で授業評価が行われ、その結果が公表されていると思います。

「学生の評価」は必要不可欠

でも、「あの先生の講義はわかりやすい」とか、「声が小さくて聞こえづらい」といった感想に近い評価になっていませんか？でも、学生の評価は教育の質を上げるためには必要不可欠な要素と考えられています。

私が20年ほど前にカナダの大学に留学していたときに、世話になった教授から、「日本では学生による授業評価はどうやっているか？」との質問を受けました。

そのころの私は、学生の評価なんて役に立たない、せいぜい、単位を取りやすいとか難しいといった情報だけしか得られないと思っていました。

すると、その教授は、その大学でいかに授業評価が教育の質の向上に寄与

しているかを示した論文をくれました。

その論文を読んでも、まだ、それはカナダの学生の話で日本の学生には無理だと思っていました。でも今は、世界的に学生による評価も不可欠になっています。

薬学教育の質評価は、Context-Structure-Process-Outcome- Impactモデルに従って、それぞれの段階で評価されます。もちろん、各国で事情も違いますし、一概に評価点を示すことはできませんが、FIP(国際薬学連合)では例として評価視点を示しています。

ここでは、ProcessとOutcomeの中

“国試合格”とは別の視点で

なお、ここに挙げた指標以外にも多くの指標が例示されていますので、興味のある人が読んでみてください。

これらは、大学が評価される視点ですが、学生にも大きく関わっていると感じてもらえれば幸いです。

特にOutcome評価でコンピテンシーという用語がよく出てきます。ここでのコンピテンシーは、薬剤師として働くことができるコンピテンシーではなく、薬剤師として働き始めることがで

Process 評価のための指標例

学習の必要性や足りないところを自分で判断することなどで、自分の学習内容の責任を取ることができるよう学生を促し、サポートする。
教育の内容は、伝統的、現在、将来の実務との関連性について適切かつ十分である。
カリキュラムの内容、教育方法は、学生が様々な実務現場で使えるよう準備されている。
資料などは学生が理解しやすいようなものになっている。実務における教育資料としても利用可能なものになっている。
他の専門職との教育や活動の機会が用意されているか。
カリキュラムはエビデンスに基づき、バランスよく、目的に応じて、バイアスのないものとなっている。
学生評価の指標と方法があらかじめ定義されて、実行されており、カリキュラムの発展の基礎となっている。

Outcome 評価のための指標例

学習のOutcomeはコンピテンシーに基づいており、具体的に測定可能なものである。
学習Outcomeの評価は知識、スキル、態度、行動のすべてのコンピテンシーの要素を含む。
卒業時に達成できるコンピテンシーが明確に明記されている。
卒業時に達成できるコンピテンシーはその国やグローバルな要求や傾向に一致している。
学生は、患者や人々の健康を改善するために新しい知識やスキルを開発した。
大学は、学生の職能、行動、態度を評価した。

から評価する指標(Indicator)の中から学生にも関係がありそうな内容を紹介したいと思います(表)。評価は、「できていない」「大幅な改善が必要である」「少し改善が必要である」「できている」の4段階で行うと示されています。

ピテンシーは違ってきます。

教育の質評価の指標から見えてくるのは、薬学教育の質は、学生が卒業したときに薬剤師として働き始めるのに必要なコンピテンシーを与えることができたかで評価されていることがわかります。

日本では、国家試験に合格すれば、薬剤師として働き始めるのに必要な能力、資質があると判断されます。でも、グローバルな視点では、薬学教育の質が薬剤師の能力、資質を担保しているかが重視されると考えられます。

大雑把な話になりましたが、様々な視点から世界の薬学教育を見てみました。患者や人々の力になれる薬剤師を育てる薬学教育とは、どんなものでしょう。学生時代から薬学教育を考える人が増えてくれることを期待しています。

正確で新鮮な医薬品情報をご提供いたします

剤形写真
患者服薬指導説明文
後発品オレンジブック
医療薬添付文書
OTC 薬添付文書
薬価基準 など

www.yakuji.co.jp